

第二次生物多様性いちかわ戦略 事前意見及び回答

No.	該当箇所	ご意見内容	意見者	回 答
1	P10	第2の危機 わかりやすい表現になったが、ニホンジカの話は市川市では馴染みがない。身近な例はないか？	久野委員	ニホンジカ以外の例を検討します。
2	P20	比較のグラフは見やすくなったが、増加した運輸施設用地が何を指しているのかわかりにくい。	久野委員	運輸施設用地は「駅舎、バスターミナル、自動車車庫、港湾、倉庫」などが挙げられます。本編中に主な凡例を記載します。
3	P20	棒グラフで増減はわかりやすくなったが、全体の割合がわからない。土地利用の全体の円グラフも載せて欲しい。 (市川市都市計画マスタープランにあり)	久野委員	土地利用全体の円グラフも掲載します。
4	P24	植物相の概略の本文に植生の全体の状況についても触れていない。資料編の内容はよくまとまっているが、なぜ資料編に分けたのかわからない。本文でも良いのでは？ (資料編は補足ではないのか？)	久野委員	本編が長くなり過ぎないように、本編には概要を、資料編に詳細という形で分けて整理しました。
5	旧 P29	図 3-16 今後参加してみたい「自然環境講座」の内容のグラフは削除？残しても良いのでは？	久野委員	本編が長くなり過ぎないようにスリム化したものですが、P30～31に掲載します。それに伴い、P29の結果概要にも同グラフの内容を追加します。
6	P43	文末の～多様な命を育む清流を取り戻す～は 2030 年への目標が清流に偏った印象になるのでは？	久野委員	今回のいちかわ戦略では、「水は生き物の源」という考えのもと、水環境の改善を通じて生物多様性の豊かなまちに繋がていきたいと考えております。

No.	該当箇所	ご意見内容	意見者	回 答
7	P 4 3	2030 年までの短期目標での今回の修正で追記された「多様な命を育む清流を取り戻す」について、“清流”という箇所で、2030 年までは特に水辺に関する施策に力を入れる、という方針（市としての考え）がある、という理解で良いでしょうか。	杉本委員	お見込みのとおりです。市として「水環境の改善」に力を入れ、生物多様性の豊かなまちにつなげていきたいと考えております。
8	概要版 P5 （本編 P50） 基本戦略 1	水環境改善をテーマと位置付け、南部の干潟、浅海域、三番瀬などの生物多様性に富んだ環境を残していく必要性を入れてはどうか。	道下委員	概要版では記載しておりませんが、本編 P45 の施策内容で湿地や干潟など水辺の生物多様性の保全・再生を図る旨を記載しています。
9	P 5 1	④都市公園の面積と数は緑や草花など自然がある公園でしょうか？	久野委員	都市公園法の都市公園となります。都市公園には、遊具がある街区公園から、里見公園や国分川調節池緑地など規模が大きい自然がある公園まで含まれます。
10	概要版 P7 （本編 P74） 市民の役割	まず身近な自然を大切にする意識を持つこと。消費活動がわかりにくく、地元産、季節の食材など環境負荷の少ない消費行動を心掛け、緑地保全地帯、生態系保全区域の利用ルールを守ることを入れたほうがいいのではないか。	道下委員	地産地消や各利用ルールなどを入れていくことを検討します。
1 1	概要版 P7 （本編 P75） 事業者の役割	法令、条例遵守。生物多様性に配慮した土地利用、開発を行うことも必要だと思う。	道下委員	法令遵守、生物多様性に配慮した土地利用等について入れていくことを検討します。
1 2	概要版 P8 （本編 P78） 各主体との 推進体制	生物多様性が、まちの魅力づくり、防災、教育、経済活動と結びつく事を期待したい。	道下委員	ご意見として承ります。